



学生の皆さんへー学長からのメッセージ

中国学園大学・中国短期大学学長 松畑 熙一

「食育」は「命の教育」

食の問題が、だんだんと「食品」という品物中心になっていって、食の基本が見失われてきているのではないかと危惧しています。物であれば、安い方がいい、きれいな方がいい、簡単で便利な方がいい、となっていくます。例の「冷凍ギョウザ」の問題の基本もそこにあると言えるでしょう。

食は「食べ物」でもありますが、もともと「(動植物の)命」です。日本語の「いただきます」という表現は、世界中で最も美しい言葉の一つです。基本的には、「(動植物の命を)いただきます(ありがとうございます)」という意味です。

この素晴らしい日本語を食前に、そして食後には「ごちそうさま」と、必ず言う習慣をつけたいものです。その言葉の底には、動植物を中心とした自然への感謝と畏敬の念が裏打ちされて、「自然に生かされて生きる力と喜び」を味わいながら食べ物の味を味わう「ハーモニー」を目指したいものです。



でした。また、グループ別討議では、みんなで一つのことをする楽しさや、難しさを学ぶことができました。研修を通じて、これからの4年間、苦しいこと、つらいこと、嬉しいこと、楽しいこと、すべて分かち合っていくのが、このメンバーでよかったと思いました。また、この研修で先生方や先輩が話してくれたことを忘れることなく、常に目標を持って大学生生活を充実したものにしていきたいと思っています。

編入生の決意 —2年間を有意義に—

人間栄養学科3年 石川俊二(瀬戸内短大卒)、
保手濱由基(広島文化短大卒)

私たちは短大を卒業し、さらに栄養について深く学びたいと思い、中国学園大学に編入学してきました。入学当初は右も左も分からず、学業や友人関係に不安がありましたが、「編入生歓迎会」でクラスみんなに暖かく迎えてもらい、それから優しく、気さくに接してくれるので、友人関係の不安は解消されました。また、授業は以前通っていた大学とは違い、よりレベルの高いもので、授業についていけるのかという不安もありましたが、授業中に先生の話をよく聞き、分からないところがあれば質問をするということに心がけてきました。そうすることにより3ヶ月が経った今、学業への不安は解消されました。

これから卒業まで2年間というわずかな期間しかありませんが、大学生活1日1日を大切に、有意義なものにしていきたいと思っています。そして、管理栄養士国家試験合格に向けて、精一杯努力していきたいと思っています。

大学生活への決意



人間栄養学科1年 鎌田 道子

大学生になったのだという喜びと、しっかり勉強しようという決意を持って中国学園大学に入学しました。勉強についていけるか、友達はできるのか不安でした。しかし、知らなかったことや興味のある内容を含む授業は楽しく、授業を受けるたびに知識が増えていくのが自分でも分り、とても嬉しく感じています。また、多くの友達もできました。

これからの大学生活には色々な期待をもって、悔いが残らないような4年間を送っていききたいと思っています。

新入生歓迎会

人間栄養学科2年 石井 麻由花

今年4月、新しく入学した1年生はもちろん、先生方や2年生も交えた新入生歓迎会を行いました。私達が1年生の頃、温かく迎えてくださった先輩方を思い出しながら献立を考え、試作を行い、一ヶ月前から取り組んでいました。途中、材料を発注する上での問題にぶつかったり大量調理を行う時の説明不足が目立ったりと、クラスの人に迷惑をかけてしまうことが多々ありましたが、無事、会を開くことができました。

今年のメニューはカレー、ポテトサラダ、フルーツヨーグルトでした。この献立も話題にしながら1年生や先生方と楽しく会話ができました。この歓迎会を通して1年生の皆さんに大学生活に慣れてもらい、また将来目指す職業を少しでも鮮明なものにしてもらえたらと思います。そして私達も大量調理を行うことで新たに学んだ事がありました。この経験を生かし、今後の授業や実習に役立てたいと考えています。



新入生宿泊研修を終えて

人間栄養学科1年 石原 麻衣

新入生宿泊研修で一番印象に残ったのは、映画「ロレンツォのオイル 命の詩」でした。突然病に倒れた息子のために、両親が全てをかけて治そうとする姿にとっても感動しました。そして、食事が身体に与える影響や、食べることの大切さ、人の温かさを感じた作品

大学院に学んで

現代生活学研究科 人間栄養学専攻1年 山本 由理

私が中国学園大学大学院に入学して早3ヶ月が過ぎました。大学院では中国学園大学で4年間学んだ栄養学を基盤として、今世界中で問題となっている自然環境や食料危機について、また予防栄養学などさまざまなことについて学んでいます。今までより視野を広げて考えなければならぬことが多く戸惑うこともありますが、自分自身の目標に向かって充実した毎日を過ごしています。また、教育熱心で温かい先生方に囲まれ、恵まれた環境で学べることをとてもうれしく感じています。

これからの2年間、多くのことを学び、経験し、多くのことを吸収していけるように、先生方のご指導をいただきながら勉学に励んでいこうと思います。

臨地実習を終えて

病院実習

人間栄養学科4年 佐柄 和子

2月の3週間、坂出市のマルチン病院で実習をさせていただきました。カトリック系の病院でしたので、温かく慈しみに満ちた雰囲気がいたる所に漂う中での実習となり、現場における人間性の大切さを学ぶ貴重な体験の機会となりました。

今回の実習を通して、病院における治療では医療と栄養療法が車の両輪として機能しているということを知り、管理栄養士の役割の大きさを実感すると共に使命感のわき出すのを感じました。そして実り多い実習となったことを喜び、実習先や大学の先生方に感謝いたしております。



小学校実習

人間栄養学科4年 長谷川 遥

私は小学校に実習に行きました。5日間の内、3日間は給食時に指導に行き、最終日には家庭科の調理実習の授業を2時間行いました。

給食時指導では私の担当は3・4・6年生で、その日の献立の中のものを使い、5分ほどの栄養指導を行いました。指導をする上で、『子どもたちが分かり易い言葉』ということを中心に念頭に置いて、楽しく食について学ぶことを目標にし、学年によって話し方や媒体を工夫しました。先生方にも『子どもの目線で話されるのが上手ですね、とても大切なことです。』と言っていました。

家庭科の調理実習は5年生を受け持たせていただき、2時間分という長時間の実習をさせていただきました。2時間という長い時間の指導をやったことが無かったので、きちんとできるか不安でしたが、時間配分もきちんとでき、子どもたちも喜んでくれたことがとてもうれしかったです。

とても実りある、得るものが多い実習になりました。この経験を今後の学校生活、将来に役立てていきたいです。

事業所実習

人間栄養学科4年 豊原えり子

私がセントラルキッチンで実習を行って感じたことは、どの部署も時間との戦いだということと、正確に作業を行わないといけないためとても神経を使う仕事だということでした。

この実習で、作業を長く続ける事だけが良いのではなく、決められた時間内に区切りをつける事も大切であることを学びました。そして、一人一人が気持ちを込めて作業を行うことによって、離れている患者様が充実した食事時間を送れるのだということを感じました。



保健所実習

人間栄養学科4年 福永 朋子

北保健センターで実習を行いました。不安と緊張の日々でしたが、地域住民の健康増進に関する業務が大変関心を持ち、楽しく取り組むことができました。特に印象に残っていることは、地域包括支援センターの打ち合わせの見学と離乳食講習会の実施です。地域包括支援センターの打ち合わせの見学では、自分の生まれ育った地域についても深く学ぶことができ、改めて、住民のQOLの向上の必要性和重要性を認識しました。また、離乳食講習会では、3~10ヶ月の赤ちゃんのお母さん方を対象とし、離乳食のすすめ方についての話をしました。早口で原稿を読んでしまい、大いに反省しました。メンバーで話し合いを重ね、媒体等の準備をしたこともよい経験となりました。



りました。

新任教員(自己)紹介

—川崎 祥二 教授—

私は、昭和39年に岡山大学理学部生物学科を卒業後、山口大学医学部、昭和62年に岡山大学医療技術短期大学部、平成10年岡山大学医学部保健学科をへて、本年4月より、本学現代生活学部人間栄養学科に着任いたしました。この間一貫して学生の教育と研究に関わってまいりました。専門は、放射線の医療分野への利用や人間社会での放射線の安全管理に関わる基礎教育を担当し、研究については、刺激(薬剤、放射線、紫外線、温熱等)に対する哺乳動物細胞の分子・遺伝子レベルでの応答を研究してまいりました。いろいろな種類の刺激に対する細胞応答は遺伝子レベルではかなり共通の反応を示していることが明らかになってきています。

本学では、若くて活発な学生諸君と接していると気持ち若々しく保ち、日々を楽しく過ごせることに幸せに感じています。本学での講義と実験は生物学、生物学実験、生化学I・II、細胞栄養学特論・演習(大学院)、等を担当いたしますが、これらを通して、これまでの教育と研究の経験を生かし学生の養成に微力ながら尽くしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



—太田 義雄 教授—

このたび、食品関連の担当者として着任しました。学科では主に食品学、食品加工学、食品化学を担当いたします。

本学に採用され、39年ぶりに故郷である岡山市にも戻ってまいりました。こちらに採用前は、広島県職員として広島県立食品工業技術センター(現 広島県立総合技術研究所 食品工業技術センター:広島市)で食品の開発研究に長年携わっておりました。

今までの専門知識と経験を生かすとともに、担当分野以外の基礎医学、脳科学および心理学についても勉強し、幅広い知識に基づいて学生の教育と育成とに組み込んでいきたいと思っております。

皆様方のご指導とお力添えをいただきながら、学生と共に成長いたしますのでよろしくお願いいたします。



—木野山 真紀 助教—

今年度より助教として勤務させていただくことになりました。栄養アセスメント、臨床栄養学実習を主に担当いたします。私は幼少より岡山で過ごし、徳島大学医学部栄養学科を卒業後、川崎医療福祉大学大学院にて修士(臨床栄養学)・博士(健康科学)の学位を取得いたしました。臨床栄養学というと、管理栄養士国家試験では重要な科目のひとつですが、そのぶん覚えることも多く学生の皆さんからすると苦手意識の強い科目だと思います。そんな科目を担当することになり、責任の重さを日々感じております。まだまだ不慣れなことも多く、そのたびに先生方にご指導いただいております。これからさまざまな経験を通して、私も学生の皆さんとともに成長していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



—鈴木 祥恵 助手—

3月に本学を卒業し、4月より助手として勤務させて頂くことになりました。私は3年次編入で入学したので、学生期間は短かったのですが、こうしてまた多くの思い出が残る本学で働かせて頂けることを大変うれしく思います。まだまだ不慣れな所が多く、皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、少しでもお役に立てるよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。



アルテミーノの思い出

2年生 平成20年2月29日~3月7日 フィレンツェ・パリ栄養学・食品研修

人間栄養学科3年 稲垣 宏呂子



全部が楽しすぎたので、何を紹介しようか迷いました。でも全員が楽しめていたのはアルテミーノだと思います。忙しい旅の中でゆっくり出来た時間だったし、3泊させてもらったのでホテルの人達とも仲良くなれました。ここでは料理講習を受けて食文化を知ったりホテルの人達と空いている時間にサッカーをしたり楽しい4日間を過ごしました。

個人の旅行ではなかなか出来ない体験でした。この旅行はまた行きたいと思える1週間でした。

テーブルマナー研修

1年生 工場見学・テーブルマナー研修(竜野・神戸方面、六甲山ホテル宿泊、平成20年2月12・13日) レポートから抜粋

人間栄養学科2年 難波 遼

私は今まで、ナプキンの使い方がよく分からなくて、いつもとまどっていたが、分かりやく教えてもらった。ナプキンの裏で口を拭けば周りの人に汚れているところを見せなくていいということが分